

The Social Marketing Research Centre
Hochschule Wismar University

日本道德教育学会第03回 令和6(2024) 年度春季大会

臓器移植を題材とした授業の指導方法の開発 —全中学校を対象としたアンケート調査結果から 現代的課題について考える道德の授業—

同志社大学商学部 / ソーシャルマーケティング研究センター
瓜生原 葉子

筑波大学附属中学校
多田 義男

2024年6月30日

臓器移植を題材とした授業の指導方法の開発
—全中学校を対象としたアンケート調査結果から現代的課題について考える道德の授業—

The Social Market Research Centre
Hochschule Wismar University

1. 研究の背景・目的

2. 調査方法

3. 調査結果

4. 授業実践とそれに対する意見

5. 考察

- 回答者の属性
- 授業実施状況
- 授業に対する感想
- 授業実施の工夫
- 教材使用状況



無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

2

研究の背景と目的

The Social Market Research Centre
Hochschule Wismar University

背景

- 本研究は、厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）「小児からの臓器提供にかかる基盤整備と普及・教育システムの開発に関する研究」の一部である。また、報告者は、**行動科学に基づく行動変容**を専門としており、行動科学の視座で本研究を行っている。
- 2019年4月より中学校の道德が教科化され、7(6)社の教科書に「生命の尊重」の題材として臓器移植が掲載された。そこで、中学校教諭が臓器移植に関する授業を円滑に実施できる環境整備、授業をきっかけとした家族との対話を促すしくみが必要と考えられた。
- 2018年度～2020年度の一連の研究では、授業実施の障壁やニーズについて定性調査を重ね、教育支援ツールとして**website**” <https://www.seimeisonchou.com/> ”を構築した。
- 2021年～2023年の研究においては、中学校道德科における臓器移植に関する授業実施の状況を調査し、**移植医療を通して生命の尊重について考える機会を提供する環境整備を行う**ことを目標としている。


本研究の目的

- 前年度に引き続き全中学校を対象とした中学校道德科における臓器移植に関する授業の実態調査を行い、教育現場の不安や授業実施の障壁 ニーズを明確化すること。
- 過去2年間の調査結果内で要望の多かった授業支援ツールとして作成した**模擬授業動画**と**授業実施ポイント動画**についての活用意向を調査すること。

無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

3

調査方法 (1)



● 対象：全中学校10,145校を対象とし、道徳推進教師宛にダイレクトメールを送り、**書面中のリンクからweb調査に回答していただいた。**


「生命の尊厳としての臓器移植に関する授業について」の調査へのご協力依頼

今年が最後の調査です。ご協力をお願いします。

2024年3月26日(火)

厚生労働省研究事業 全身体験型道徳教育推進事業
『小中学校の道徳教育に関する研究』
道徳教育推進教師の意向に関する調査

分科研究員 瓜生原 子 (国立北九州大学 教授)



アンケートにご協力いただくと…

道徳科「生命の尊厳」の授業でお使いいただける教材セットなどをダウンロードいただけます。昨年度の調査結果もご覧いただけます。

ご回答の程よろしくお願いたします


授業でご利用いただける教材セット内容

- 「つなぐいのち」(マンガを基にした漫画) / 生徒の様子
- 「つなぐいのち」(マンガを基にした漫画) / 道徳科の授業
- 「つなぐいのち」(マンガを基にした漫画) / 道徳科の授業
- 「つなぐいのち」(マンガを基にした漫画) / 道徳科の授業

アンケート結果から新たな教材を作成しました!

中身のアンケートにお答えいただくと、昨年の本調査結果を見ることができ、道徳科「生命の尊厳」授業でお使いいただける教材セットをダウンロードいただけます。最後のチャンスです。

生徒様のために
中学校・道徳教育推進教師の
皆様へのお願い



公的機関からの依頼であることを明示 ← 開けていただく工夫 → 意義、ベネフィットを明示

無断複製・複製・転載はご遠慮ください © 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

調査方法 (2) 定量調査方法、分析方法



● 対象：全中学校10,189校の道徳推進教師

● 調査項目は、表のとおり。


変数	次元	数	概要	回答形式
成果変数	授業実施月 (有無)	1	授業実施の時期	2段階 Q2
	授業満足度	2	主題の伝達度、実施満足度	7段階尺度 Q4
	継続行動意向	2	来年度授業実施意向、工夫意向	7段階尺度 Q4
	行動変容ステージ	1	関心度、意思決定、行動意向、行動	7段階 Q15
授業関連	授業準備、実施状況	6	生徒の様子など	7段階尺度 Q4
	工夫、理由	2	授業の工夫、授業実施しなかった理由	自由記述 Q3, 6
	教科書出版社、資料 (授業実施者向け)	2	使用した教科書の出版社名、資材	多肢択一式 Q1, 5
	既存資料について	7	認知、活用有無、活用意向	2段階 Q7, 8
	新規資料について	10	役立つ、活用意向有無	5段階 Q9, 10
ツール	Websiteサイト	1	感想	自由記述 Q11
特性	個人特性	4	年齢、教育歴、専門科、道徳教育推進教師	Q12, 13, 14
その他	アンケート回答理由、感想	1	アンケートへの回答理由	自由記述 Q16

● 分析：

- 統計ソフトSPSS (IBM Statistics ver.29) を用いて、集計ならびに2群における両側t検定を実施 (有意水準 $p < 0.05$)、 χ^2 乗検定など。
- Nvivo (Releasw 1.7.1(1534)) を用いて、自由回答のテキストマイニング。

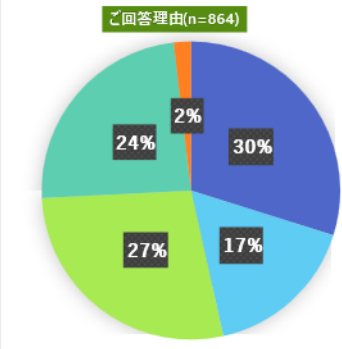
無断複製・複製・転載はご遠慮ください © 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

ご回答誠にありがとうございました。



● ご回答者1,187名 (回答率11.7%)

● 回答に欠損値のない864名を解析対象者とした。



ご回答理由(n=864)

アンケート回答理由 (最も動機になった理由)

- 1.より良い教育ツールの開発につながるから
- 2.厚生労働省研究事業の依頼だから
- 3.教材セットをダウンロードできるから
- 4.学校から依頼されたから
- 5.その他(立場上の使命感、研究協力意向、当事者など)

無断複製・複製・転載はご遠慮ください © 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

調査結果:回答者の属性



年齢(n=864)

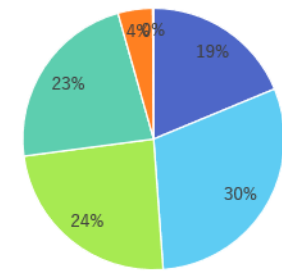
年齢	
平均値	40.2
中央値	40.0

教育歴(n=864)

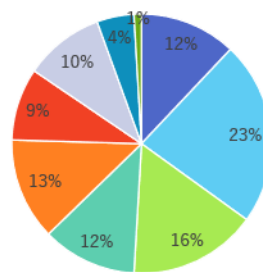
教育歴	
平均値	16.3
中央値	14.0

科目(n=864)

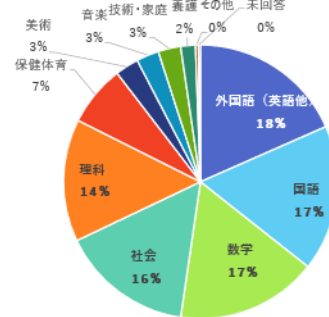
専門科目は多岐にわたっている



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上 ■ その他



■ 0-4年 ■ 5-9年 ■ 10-14年 ■ 15-19年 ■ 20-24年 ■ 25-29年 ■ 30-34年 ■ 35-39年 ■ 40年以上



無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

7

参考:各社教科書における臓器移植の記載



7社(6社)の教科書に、臓器移植が「生命の尊さ」を学ぶ題材として掲載されている

出版社名	教科書タイトル	教材名	主な内容	学年	ページ(実施月)
学研教育みらい	新・中学生の道徳 明日への扉	優介の決意	移植医療を5人の立場からコメントを掲載。多様な立場から考える。	3	146-151 (1月)
学校図書	輝け 未来 中学校道徳 (令和3年から休刊)	大きな木	(物語調) 絵本の抜粋を読み、自分の死後、臓器が他人の役に立つのであれば提供したいのかどうかを考える。	2	200-207 (2月)
教育出版	中学道徳 とびだそう未来へ	家族の思いと意思表示カード	提供の意思を示していた大学生の両親の意見の相違から自分の意思を考える。意思表示カードに記された姉の思いと、家族の思いを述べて、生命をどのように大切にするかを考える、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てる。	3	114-115 (12月)
あかつき教育図書	中学生の道徳 自分を見つめる	ドナー	「ドナー」上記と同じ投稿を読み、命はだれのものなのかを考える。臓器移植をめぐる2つの立場。	3	88-90 (10月)
日本教科書	道徳中学校 生き方を創造する	臓器移植をめぐる命と心	(随筆調)「臓器移植をめぐる命と心」臓器移植についての肯定側と否定側の意見を理解し、臓器移植のこれからの在り方考えることを通して、生命尊重について考える。	3	154-159 (12月)
日本文教出版	中学道徳 あずきを生きる	臓器ドナー	「臓器ドナー」自分の場合には提供に肯定的であるが家族には否定的な新聞投稿を読み、立場を変えて考える。臓器移植をめぐる2つの立場。	3	136-139 (11月)
光村図書	中学道徳 きみがいちばんひかるとき	つながる命	「つながる命」6歳未満の女兒の提供家族の手記を読み、その家族の気持ち、命とは何かを考える。新聞記事として掲載。	2	不明 (12月)

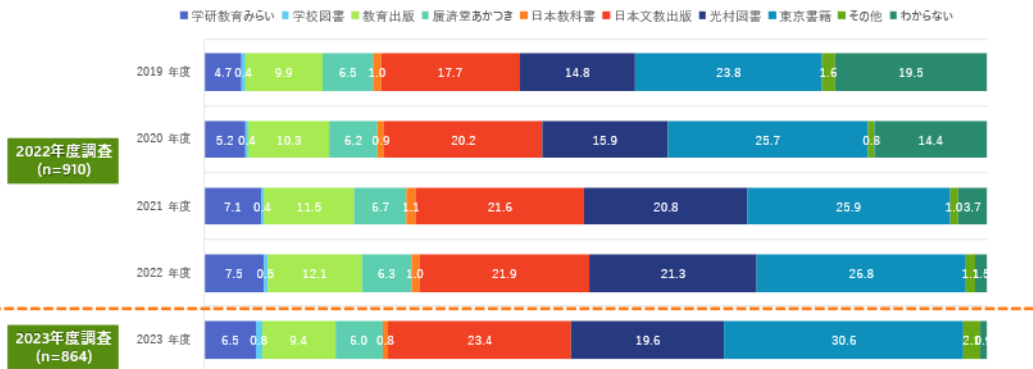
*完全に反映できていない可能性あり

無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

調査結果:使用教科書の推移



● 移植医療の記載があると考えられる教科書の使用は
55.1%(2019年度)→59.1%(2020年度)→69.3%(2021年度)→70.5%(2022年度)→66.4%(2023年度)



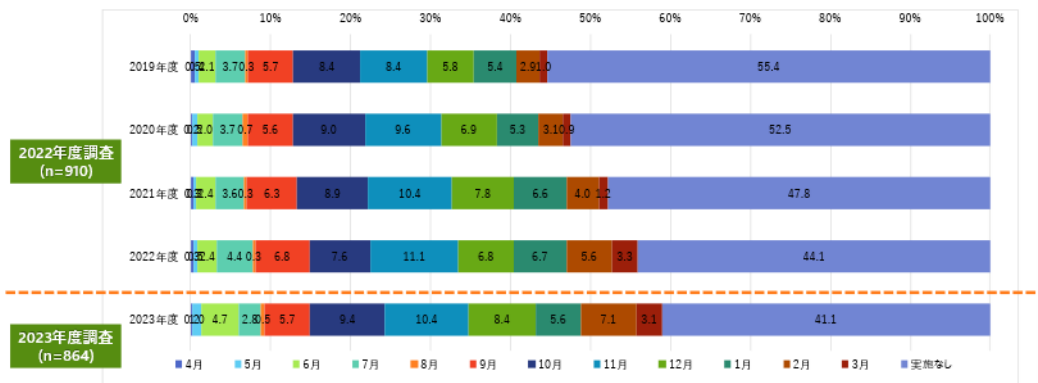
無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

9

調査結果: 授業実施状況の推移



- 授業の実施は増えている
- 44.6%(2019年度) → 47.5%(2020年度) → 52.2%(2021年度) → 55.9%(2022年度) → 58.9%(2023年度)



無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

10

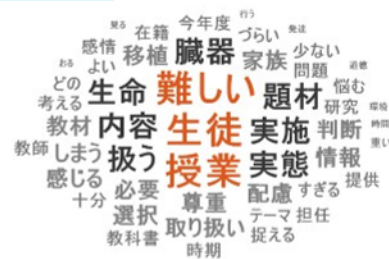
調査結果: 授業未実施の理由: 傾向は 22年度と変わらず



未実施者 (355名) のうち回答者 (322名) 理由

外的要因(n=271)

内的要因(n=54)



- ✓ 教科書の題材 (教材) がない
- ✓ 生命の尊重を別の題材 (教材) で実施 (生命の誕生、骨髄バンク、尊厳死など)
- ✓ 別の科目や題材時に実施 (社会科、保健体育など)
- ✓ 授業時間や教材研究時間の不足
- ✓ 該当学年でない

- ✓ 生徒への配慮 (家族や親族に該当者がいる、感情移入しすぎてしまう、発達段階を鑑み)
- ✓ 題材の取扱いの難しさ (内容が重い)
- ✓ 教員の知識不足 (授業のやり方がわからない、責任を負えない、説明が難しい)

※キリスト教系や宗教科のある学校などでは、宗教については学ぶが、思想の違いや道徳科が存在せず臓器移植の授業はない場合が多い。

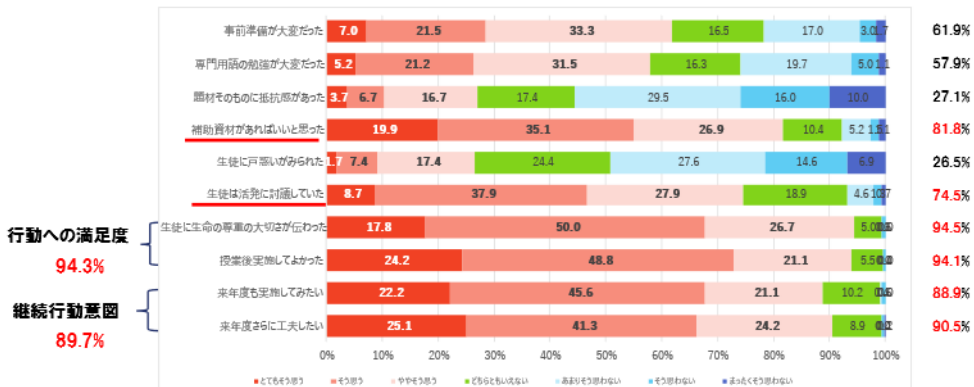
無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

11

調査結果: 授業実施の感想




- 授業実施への満足度は9割以上、将来への行動意図は約9割と高かった
- 生徒が活発に討議していたと感じた教諭は5%であった
- 補助資料に対するニーズが高8割を超えていた



無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

12

調査結果：授業実施の工夫



授業実施の工夫(n=329, 実施者509のうち回答者)

【資料】

- 授業で臓器移植についての資料をみせる（動画JOTのHP、サンクスレター、パンフレット、NHK for スクール）
- 臓器提供意思表示カード（コピー含む）の配布（授業後に家族でも話ができる）

【進行】

- 臓器移植（提供）の是非にならないようにした
- 立場を変えて自分の意見を考えさせる（相手の気持ち、自分事化させる。家族や親族が臓器移植を受ける場面を想定させた、ドナー家族やレシピエントなど、発問の工夫）
- 生徒への配慮（家庭環境、体調に異変が起きないようになど）
- 授業前後にアンケートまたは話し合いを実施（変更をとらえようとした）
- 授業の導入に臓器移植や脳死（などの用語）について誤解のないように丁寧に説明した

【その他】

- 臓器提供が行われている社会構造や世界的な状況にも視野を広げ多角的に考える機会を設けた
- 道徳科や社会科など教科を横断した取り組みを実施


【具体例】

- 自分の臓器移植意思表示カード（全てOK）と弟の臓器移植意思表示カード（選択OK）と妹の臓器移植意思表示カード（NO）の提示とそれぞれが違う理由家族との話し合い内容等を使い、あなたの場合、自分や家族はそれぞれどう考えようか自分の事として話し合った。
- 臓器移植のレシピエントの方の、インタビュー動画を使用した。グリーンリボン月間に合わせての授業にした。ライトアップなど、グリーンリボン月間とも関連つけた。やはり、動画の力は大きいと思う。
- 県の臓器移植コーディネーターとの授業を実施した。
- 臓器提供意思表示カードを取り寄せて、配布した。付属の資料も読み合わせ、教室でも読めるように各クラスに置いた。
- タブレットを使って、クラス全員の意見がお互いにわかるようにした。授業中、日本臓器移植ネットワークのホームページに各自アクセスした。
- 自分だったら移植を希望するかどうか、家族のことも考えながらのデリケートな授業だったので、ロイノートを活用してたくさんの生徒の様々な意見や考え方に触れ、どの意見も肯定的に受け止めることができるように配慮して授業を行った。
- 両親からの手紙を夏から準備して、授業を行った。生徒にはサプライズだったので、大半が教材で涙し、手紙でも涙する場面があった。
- 子どもたちの立場から臓器移植について考えさせるようにした。臓器移植では、家族の視点、本人の視点など多様な立場が存在するが、子どもたちから見た臓器移植とは何かを私自身が理解したかったためである。
- 両親と一緒に考える。両親参加の道徳科で行った

無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.



13

調査結果：教材の使用状況



● 厚労省のパンフレットの活用は27.3%であるが、活用意向は高い。
● 教科書会社の資料、インターネットで検索して見つけた資料を使う場合が多い。

厚労省の資料に関して(n=864)

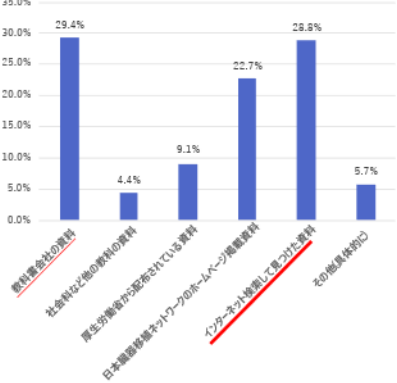
厚労省からの配布資料

- 認知：72.9%
- 配布：53.8%
- 授業での活用：27.3%
- 今後の活用意向：83.3%

JOTによる解説資料

- 認知：50.0%
- 活用：16.6%
- 活用意向：78.0%

教材に使用した資料実施者n=528, 複数回答



無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

14

情報を一元化したwebsiteの構築







中学校の道徳の授業をお考えの先生に

「生命の尊さ」の授業

● 移植を前面に出さないー移植に関わるサイトは移植を推進しているのではという懸念を払拭

● サイトの名称、文章、写真：教育を前面に出す、親しみやすいイメージ

<https://www.seimeisonchou.com/>

無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

15

ワンストップであらゆる資料にアクセスが可能

道徳教材セット
(日本臓器移植ネットワーク)

小中学生向けキッズサイト
(日本臓器移植ネットワーク)

アニメで知る移植医療
(日本移植学会)

16

情報を一元化したwebsiteの構築

専門用語の勉強が大変という声に応えた

よくあるご質問

↑日本移植学会の website

←日本臓器移植ネットワークの website

無断複製・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

17

情報を一元化したwebsiteの構築

「生命の尊さ」を伝える広場 <https://www.seimeisonchou.com/>

授業支援ツール

- 対象者別にコンテンツを展開
- 授業を実施しようと思っているけど不安でいっぱい
の先生：あらゆるサイトの基本情報を集約
- 一度実施してさらに工夫をしたい先生：授業の実
践方法に重点をおく

多様な模擬講義

無断複製・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

18

The Social Market Research Centre
Doshisha University

情報を一元化した website の構築

遊徳教材セット「つながるいのち」アニメ
 生徒用冊子・教師用手冊
 臓器移植についての解説映像（動画）
 移殖を受けた方の声、臓器提供をしたご家族の声（動画）
 移殖経験者、臓器提供ご家族の手記（冊子）
 授業組み立てに関する論文
 アニメで知る移殖医療「ヒーロー」
 臓器移植に関する資料

一初めて授業を行う先生へ
 さらに工夫をお考えの先生へ
 : 多様な模擬講義

19

The Social Market Research Centre
Doshisha University

「臓器移植」を題材とした授業実践

教材について

- ・東海地方の病院でインフルエンザ脳症で脳死と判定された女兒の両親の手記
- ・父親は、悩んだ末に臓器提供を決心したといい、女兒には「もしいざあったらゴメンね」と語りかけ、その判断が正しいものであったか判断できない本人の代わりに下した決断に苦悩
- ・母親は「お母さんをもう一度抱きしめて笑顔を見せて」と娘を失った思いをにじませている。

20

The Social Market Research Centre
Doshisha University

「臓器移植」を題材とした授業実践


主題名 「生命の尊さ」
 関連項目 思いやり、感謝、家族愛、人間として生きる喜び

ねらい
 我が子の臓器を提供した両親の手記から、**かけがえのない生命をいとおしみ、その尊さ**について自ら考え、主体的に行動できる実践意欲と態度を育てる。

臓器移植を通して
生命の尊さを考える

21

「臓器移植」を題材とした授業実践



導入

教材を判読

ペアトーク

Aちゃんが繋いだその命

私たちが「生きる」とは

5行に託された母の思い

自分のこととして、考えたことがない生徒が多いことをおさえ、簡潔に「臓器移植」について説明 JOT（脳死後の心停止後の臓器提供）

4人でグループトークを行う。
教師の指示で **レシピエントの家族の立場**
ドナー家族立場 で考えさせる


中心発問 父の思いから「生命」について考える

主題につなげる 私たちが生きている意味について


22

無断複製・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

「臓器移植」を題材とした授業実践



導入



ペアトーク

臓器移植をめぐる2つの立場

中学校舎側の2人

提供することになった家族

高校校舎側の2人


臓器移植を提供される家族

それぞれどのような思いでいるのか
考え話し合ってください

23

無断複製・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

「臓器移植」を題材とした授業実践



- 自分の大切な家族が助かるからうれしい
- 誰かがなくなったということだから申し訳ない
- 複雑

＜臓器移植を提供される家族＞

- 提供してくれた人に感謝したい
- 自分の子供にも親自身にも生きる希望が見つかった

臓器移植を提供される家族

提供することになった家族

- 相手を助けることになるが、それと同時に自分の子供の命をあきらめるということになる、やるせなさや辛さがあるだろう。
- もう助からないとわかる命を有効活用？

自分の子供の命をあきらめることでもあるためやるせない
相手を助けることができることに
対する希望

24

無断複製・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

授業収録 2023年9月下旬 対象3年生



中心発問 「Aちゃんが繋いだその命」父はどのような思いなのだろう

父の想いから「生命」について考える

授業シーン 17"30~18"30 60秒



生徒Aが将来何がやりたいか

生徒A（男子）の発言を受け

生徒B（女子） みんなプラスのことばかり
言っているけど・・・



無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

25

授業収録 2023年9月下旬 対象3年生



主題につなげる 私たちが生きている意味について

発問 「生きる」とは

授業シーン 19"20~19"55 35秒

生徒A（女子） 誰かのために・・・

生徒B（男子） そんなこと考えたことない



無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

26

授業収録 2023年9月下旬 対象3年生



終末

母の想いは・・・

授業シーン 27"18~28"00 42秒



お父さんは仕方なく割り切っているけど
お母さんは受け入れることができない辛さが滲みでている

お母さんを
もう一度
抱きしめて
そして
笑顔を見せて
お母さんより

無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

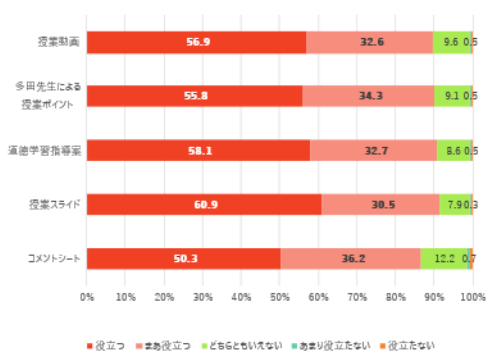
27

教材の役立ち度、活用意向

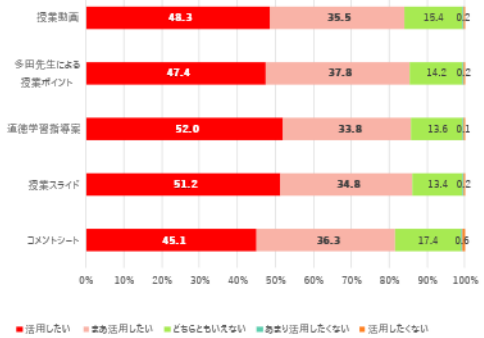


教材の役立ち度は約90%、活用意向は85.5%

教材の役立ち度(n=864)



教材の活用意向(n=864)



無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

調査結果：多様な模擬講義についてのご感想



全体864名のうち、回答者826名の分析結果

【Good】

- 授業の進め方やポイントがわかりやすい
- ポイントごとに分かれているのも良い
- 実際の映像（参考資料）があるのはとてもありがたい
 - 発問の工夫、教材研究などがとても勉強になった
 - 教師の学びにもなり、実施の参考にもなる
 - 生徒の反応がみられ勉強になる
 - 道徳の授業モデルや指導案が教材ほど公にされていない。正解がないため難しいと日頃感じている
 - 授業準備に多くの時間をかけずに授業を行える
- 校内研修でも活用できる（不安のある先生に紹介しやすい）
- 実践しやすいので、今後の授業で活用できる
- 生徒の実態に応じて考えながら活用したい

【More】

- 役に立ちそうだが教員の準備時間の確保が難しい（動画が長い）
→ 動画でなくポイントをプリント（レジュメ）にまとめてあると使いやすい
- 保護者への周知・理解が難しい内容（キリスト教の生命観とのずれ）
→ 授業を受けないという選択も必要
- 活用してみたいが、授業スライドの文字が多く見づらい
→ 教師側が簡潔に説明する必要

無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

【課題】

- 教材：生徒が自分事化できないと思う（教材は子どもの臓器提供だったので、親の気持ちに焦点があてられており、自身のことではないのが、**中学生には難しい**。人生経験が短い中学生の授業で生命を扱うと、客観的な知識理解や分析になりがち。綺麗事を出し合って授業が終わるような気がする。自分とは遠い関係の第三者の思いについて考えたところで、振り返りの多くが「命を大切にしたい」などの**深まりのないものになる**と思われる。）
- 物理的：参考になるが本校の実態では難しい。
 - 臓器移植などについての事前の予備授業が必要
 - 道徳の授業も学年や担任裁量で題材が決まる部分も多く、年間計画で題材ごとの実施時期が決まっていることもあるので、新しい内容を提案するのは時間や労力がかかる
- テーマ：参考になるが**難しい・重い**題材である。知識がないため抵抗感あり、どの先生でもできるものではない、技量のある教師が行わないといけないと感じる
- 道徳の授業：専門的な免許や知識がないまま現場の先生の指導に任せられていることに課題があるように思う。指導する先生方も、昔受けた指導を踏襲する形になる場合が多いように思う。しかし、道徳の指導には発達段階に応じた明確なねらいが学習指導要領には記載されており、それぞれの発達段階に応じた深め方や指導の工夫が必要になる。今後は、例えば**中学校の最上級学年だからこそ考えられる**視点や考えを引き出す発問等、発達段階に応じた指導の工夫に関してご紹介がありましたら幸いです。

調査結果：授業実施の工夫



授業実施の工夫(n=329, 実施者509のうち回答者)

【資料】

- 授業で臓器移植についての資料をみせる（動画JOTのHP、サンクスレター、パンフレット、NHK for スクール）
- 臓器提供意思表示カード（コピー含む）の配布（授業後に家族でも話ができる）

【進行】

- 臓器移植（提供）の是非にならないようにした
- 立場を変えて自分の意見を考えさせる（相手の気持ち、自分事化させる。家族や親族が臓器移植を受ける場面を想定させた、ドナー家族やレシピエントなど、発問の工夫）
- 生徒への配慮（家庭環境、体調に異変が起きないようになど）
- 授業前後にアンケートまたは話し合いを実施（変更をとらえようとした）
- 授業の導入に臓器移植や脳死（などの用語）について誤解のないように丁寧に説明した

【その他】

- 臓器提供が行われている社会構造や世界的な状況にも視野を広げ多角的に考える機会を設けた
- 道徳科や社会科など教科を横断した取り組みを実施

無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

【具体例】

- 自分の臓器移植意思表示カード（全てOK）と弟の臓器移植意思表示カード（選択OK）と妹の臓器移植意思表示カード（NO）の提示とそれぞれが違う理由が家族との話し合い内容等を使い、あなたの場合、自分や家族はそれぞれどう考えようか自分の事として話し合った。
- 臓器移植のレシピエントの方の、インタビュー動画を使用了。グリーンリボン月間に合わせての授業にした。ライトアップなど、グリーンリボン月間とも関連づけた。やはり、動画の力は大きいと思う。
- 県の臓器移植コーディネーターとのT授業を実施した。
- 臓器提供意思カードを取り寄せて、配布した。付属の資料も読み合わせ、教室でいつでも読めるように各クラスに置いた。
- タブレットを使って、クラス全員の意見がお互いに見えるようにした。授業中、日本臓器移植ネットワークのホームページに各自アクセスした。
- 自分だったら移植を希望するかどうか、家族のことも考えながらのデリケートな授業だったので、ロイノートを活用してたくさんの生徒の様々な意見や考え方に触れ、どの意見も肯定的に受け止めることができるように配慮して授業を行った。
- 両親からの手紙を夏から準備して、授業を行った。生徒にはサプライズだったので、大半が教材で涙し、手紙でも涙する場面があった。
- 子どもたちの立場から臓器移植について考えさせるようにした。臓器移植では、家族の視点、本人の視点など多様な立場が存在するが、子どもたちから見た臓器移植とは何かを私自身が理解したかったためである。
- 両親も一緒に考える。両親参加の道徳科で行った

まとめ



- 本研究の目的は、①前年度に引き続き全中学校を対象とした中学校道徳科における臓器移植に関する授業の実態調査を行い、教育現場の不安や授業実施の障壁、ニーズを明確化すること、②過去2年間の調査結果内で要望が多かった授業支援ツールとして作成した「模擬授業動画と授業実施ポイント動画」についての活用意向を調査することであった。

- 1,187名よりご回答をいただき（回答率11.7%）、欠損値のない864名を解析対象者とした。

【授業実施状況】

- 実施率：44.6%(2019年度) →47.5%(2020年度) →52.2%(2021年度) →55.9%(2022年度) →**58.9%(2023年度)**と増加。
- 生徒が活発に討議していたと感じた人は5%、実施による満足度94.3%、継続意図が89.7%であった。
- 授業未実施の理由として、外的要因（教科書の題材にない、生命の尊重を別の教材で実施、授業時間の不足）、**内的要因（生徒への配慮、題材の取り扱いの難しさ、教員の知識不足）**が挙げられた。

【補助教材について】

- 授業実施に補助資料を必要とする割合が8割であった。
- インターネットで検索して見つけた資料を使う場合が多いことから、情報を一元化したサイトを作成し、最もニーズが高かった**授業実践の動画**を掲載した。
- その役立ち度活用度は90%、活用意向は86%であった。

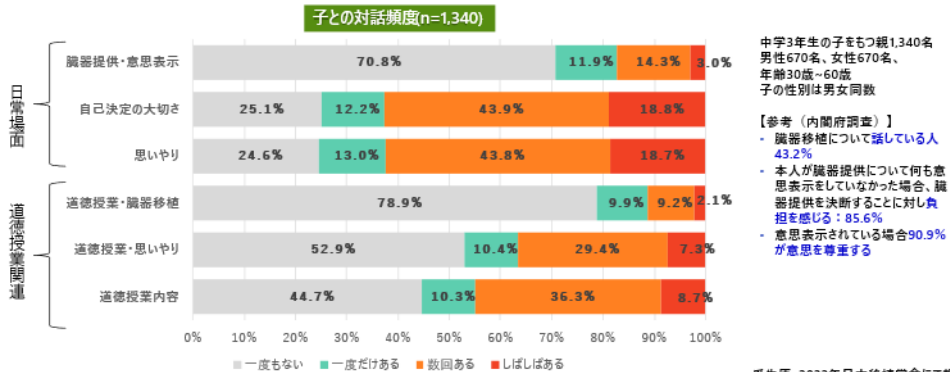
無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

31

課題：授業後の家庭における親子の対話



- 道徳の授業について対話している人は5.3%
- しかし、臓器移植に関する内容について話したことがある割合は1.1%
- 臓器提供・意思表示について日頃の対話は9.2%
- 親和性の高い「自己決定の大切さ（74.9%）」や「思いやり（75.4%）」に比較して低い



無断複写・複製・転載はご遠慮ください© 2024 Yoko Uryuhara. All rights reserved.

課題：授業後の家庭における親子の対話



- 「あなたは、お子さんが臓器提供についてどのように考えているのかについて知りたいと思いますが7.6%
- 「お子さんが臓器提供についてどのように考えているのかについて知らない時、いざという時、あなたが困ると思いますか」48.9%
- 「あなたは、お子さんが臓器提供についてどのように考えているのかについて**話し合いたい**と思いますが」**54.3%**

